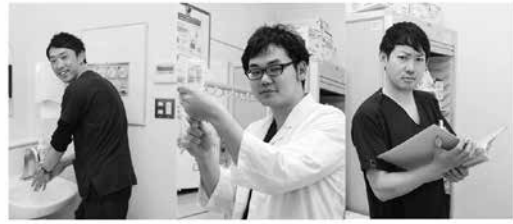


脳神経外科

■診療科長 竹島 秀雄

■研修実施担当者 武石 剛



教育施設として認定を受けている学会

日本脳神経外科学会・日本脳神経血管内治療学会

診療科の概要

脳神経外科は外科から分かれた比較的新しい診療科です。当科は1978年に開講して38年目になります。日本脳神経外科専門医研修プログラムの基幹施設に指定されており、県内に4ヶ所の連携施設、県内外に7カ所の関連施設があります。

現在、28名が教室に所属しており、内15名を関連研修施設に派遣しています。

研修症例の特徴

主な対象疾患は脳腫瘍、脳血管障害、神経外傷、脊髄・脊椎疾患、水頭症を含む先天性疾患、機能的脳外科疾患などになります。

基本的に研修医はそれらすべてを網羅できるように主治医として受け持つこととなります。

そして、それらに対して手術・血管内治療を含めた外科的治療はもちろん、内科的保存療法についても学びます。

また術前・術後管理や合併症対策などを通して全身管理にも習熟します。

研修目標

【一般目標 (GIO)】

脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）、頭部外傷や脳腫瘍などの疾患について全身を管理できることを目標とし、患者と家族の立場にたったアセスメントと問題点の抽出、解決策を身につける。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 全身管理：バイタルサインの理解と管理ができる
- 脳神経所見をとり、神経学的な問題点を抽出できる
- CT、MRIを含む画像診断が出来る
- 解剖学、生理学、生化学的知識を統合した疾患の理解が出来る
- 治療に参加し、自分の意見を述べる
- 脳神経外科専門医の取得
- subspecialtyとしての癌専門医、脳血管内治療専門医、脊髄外科専門医、神経内視鏡技術認定医の取得

研修方略

【指導医および指導体制】

病棟では指導医(基本的に卒後7年目以上の脳神経外科専門医)がマンツーマンで指導し、他に病棟医長の指導のもとで主治医となり入院患者の診断、検査、術前・術後管理を行います。

脳神経外科の主要な開頭・脊髄・脊椎手術においては原則として主治医が第1助手、専門医・指導医が術者もしくは第2助手となり、直接手術の

介助を行い、脳神経外科手術の基本手技に習熟します。

また指導医の指導・助手のもとに穿頭手術(慢性硬膜下血腫除去や脳室外ドレナージなど)や脳室腹腔シャント術などを執刀医として執刀出来るようになることを目標とします。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

各種研究会

神経放射線病理カンファレンス(放射線科、病理と合同カンファレンス)

【週間スケジュール】

	午前	午後
月	入院症例カンファレンス 病棟業務	病棟業務
火	手術 病棟業務	手術 脳血管撮影・脳血管内治療
水	入院症例カンファレンス 回診	病棟業務 脳血管撮影・脳血管内治療
木	手術	手術
金	手術	手術 脳血管撮影・脳血管内治療

研修評価

- オンライン卒後臨床研修評価システム(EPOC)による研修実施内容の評価(観察記録)

指導医・先輩医師からのメッセージ

「専門は脳神経外科です。(ｷｯ!)」

と、自己紹介すると何か出来る医者になった気がします、気がしませんか？

そんな僕だけの妄想はさておき、我々脳神経外科医が担う領域は広く、当然若手医師に人気の救急領域(脳血管障害・神経外傷領域)もカバーします。意識障害を主訴に救急搬送される患者に対しては、必然的に全身管理も要求されます。また脳血管障害・脳腫瘍領域(特に頭蓋底腫瘍など)などの手術は、己の技術や度胸(ﾊｰﾄ)が試される手術が多く、同時に神経合併症を出さないための繊細な手技が要求されます。そんな手術をしている自分を想像(妄想)するとカッコいい気がしてくるから、脳神経外科ってすばらしいですよ。無論、脊髄・脊椎疾患、水頭症を含む先天性疾患、機能的脳外科疾患領域だって大丈夫、勉強できます。7年日以降の脳神経外科専門医を取得後は、そんな専門疾患の中からサスペンシブリティの勉強を開始、国内・海外留学とかしながら更に深みに入っていきけるわけです。もう楽しくて抜け出せるわけがない。

最後にそんなサスペンシブリティの中には「脳神経外部(ﾉｼﾝｸﾞｲﾝｸﾞﾙｰﾌﾞ: 体育会系部活)」領域もあります。宴会を活動中心としたこの領域、研修医でもトップとなるのが可能です。留学は出来ません。

何だかとっても楽しい研修になりそうな予感、、、是非お待ちしております。(武石剛 平成15年卒)